

過去2年間の審議会における委員からの意見と
指針改訂に向けた対応方向について

主な施策の方向	意見	対応方向
1 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信（彩る）	国際化の時代における情報発信も含め、 岩手の文化芸術を国際化の中でどう位置付けるか について、現在の指針には盛り込んでいないので、 次期指針では盛り込むべきではないか。	<p>本県の文化芸術情報を海外へ発信し、また、海外の文化芸術を取り入れ、海外団体との連携・交流を通じ、本県の魅力を発信することは重要であると考えます。</p> <p>文化芸術情報発信の国際化の視点を、指針改訂の中で反映してまいります。</p>
	平泉が世界文化遺産となったことを契機に、海外の音楽家を招待するコンサートは増えているが、 地元の良さを発信する国際コンクール （特に地元の子どもが参加できるコンクール）を岩手で開催することも必要。	
	日本全体、自治体の目線がまだ内向きであるところがあり、釜山国際映画祭などのように、 積極的に海外を利用して自分達の地域振興に役立てる 、といった国際的目線を次期指針に積極的に反映させていただきたい。	
	例えば、 外国のテレビで「あまちゃん」を流す ことになれば、その国の方々の岩手県というものに対する関心は強まっていくし、中には来県する方もいるであろう。 外国と岩手県を繋げていく一つの契機 がある。	
	来年3月の国連防災会議においても、学生会議をドッキングさせる、企業・CSRとの連携を図る、 海外プレスとの対応を積極的に図っていく といった形で取り組むこともあるのでは。	
	震災復興などには 国際交流基金 なども随分と積極的に取り組んでおり、このような 外部組織とも連携 をし、今回の震災からの教訓を世界と共有していき、 岩手県がもっと外との接点の中で自分達の良さというものを見直して いければよい。	
	平泉の柳之御所遺跡から出土した「平泉のカエル戯画」をモチーフとした岩手県の新しい公認キャラクター「ケロ平」について、 歴史的背景も紹介 してほしい。	
	指針において「伝統芸能」や「美術」という言葉は出てくるが、「 クラシック音楽 」という言葉は出てこない。	
	知事がよく言う「 ソフトパワー 」について、現指針には十分に盛り込んでいないので、新指針においては、 理解をしていただけるよう配慮 しながら盛り込むことが必要。	
本県の文化芸術振興に 文学が具体的に盛り込まれていない 。		

主な施策の方向	意見	対応方向
	<p>岩手県がこれだけ近現代の文学に関して極めて重要な大きな資料、財産を持っているにもかかわらず、他県に比して、例えば文学館がない、あるいは文学全集がないというような点で見劣りするので、もう少し文学に関して力を入れていただきたい。</p> <p>石川啄木の資料収集を始めとする文学資料の収集について、岩手県で力を貸してほしい。古書店で販売しているが高すぎて購入できない。</p> <p>被災地からの発信の手伝いをする仕掛けづくりが必要。</p> <p>現在の岩手県文化芸術振興指針は震災前に策定されたので、次期指針を策定するに当たっては、被災後に生まれた新しい文化(被災地で生まれた新しい生活文化)をも取り上げてほしい。</p> <p>岩手らしさ、情報発信のあり方、若者への情報提供のあり方等も盛り込むべき。</p> <p>平成25年8月に、郷土芸能使節団でブラジルやパラグアイの岩手県人会を訪れた際、岩手の文化や民俗芸能を非常に大切に守っていたことを県民にも知らせてほしい。</p> <p>民俗芸能団体の文化財指定について、市町村間でのばらつきがある。未指定団体の指定促進をお願いしたい。</p> <p>地方出版社が出版する公募文芸雑誌や岩手芸術祭の文芸作品集のように、地方の文学・演劇・小説を継承させていってほしい。</p>	<p>文化芸術情報の発信元・発信先(対象)等をどのように行うか、といった視点を指針改訂にも反映していきます。</p> <p>民俗芸能・地方文化等の総合的調査・保存・継承の観点については、指針改訂の中でも引続き採用していく方向です。</p>
<p>2 文化芸術と県民との交流支援体制の整備(楽しむ)</p>	<p>「文化芸術の鑑賞者数は増加傾向」とあるが、入場者数を増やして入場料収入を上げていることを評価したとするのであれば、人の集まりやすい事業だけ、いわゆる芸術的なものは余り関係ない人が集まっているのかなと心配しています。</p> <p>評価項目について、博物館及び美術館が入場者数だけで評価されるようになっている。入場者数にこだわらず、活動・企画内容で評価されることが良いものと思う。</p> <p>市町村間において、文化芸術に関してのマンパワーの差があるため、「食の匠」のように、文化芸術活動を推進する個人に委嘱し、地域において文化振興に頑張っていただく方法を検討してほしい。(地域の文化芸術活動を支援する制度として、文化芸術コーディネーター制度はあるが、団体での支援活動であるので、個人にも頑張っていただけるとよい。)</p>	<p>評価項目については検討を要するところですが、県民・鑑賞団体等のニーズ把握の強化については、指針改訂の中でも考えていかなければならない課題であると考えます。</p> <p>文化芸術鑑賞・活動のアドバイザーに関する事項は、指針改訂の中でも引続き採用していく方向です。</p>

主な施策の方向	意見	対応方向
	<p>若者文化には多様な可能性があるわけであり、それを県全体の文化芸術に高めていくのかという取組が必要。</p>	<p>新たな文化芸術分野への支援等をどのように行うかといった視点を、指針改訂にも反映していきます。</p>
<p>3 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援（育む）</p>	<p>県全土において、特に被災地において文化活動における高齢化及び後継者難という問題が非常に顕著になってきている。</p> <p>新しい指針では、被災地の課題を全県的な課題と捉えた検討が必要。</p> <p>現行の「岩手県文化芸術振興指針」は、復興に向け見直すべき。</p> <p>次期指針では、震災後の岩手を反映したものになるが、文化芸術を県の復興においてどう位置付けるかが大事だ。</p> <p>民俗芸能について、このままでは無くなっていくというよりも現在休止（の団体）が増えている。</p> <p>学校によっては宗教の問題ということで民俗芸能をやめたところもあるが、民俗芸能は宗教の問題ではなく、生活文化である。その理解が後継者育成の面で非常に大事である。</p> <p>民俗芸能というのは、非常に地域コミュニティにふさわしい芸能であり、後継者がいなくなると活動ができないこともあるので、将来までずっと伝承が続けられるよう、コミュニティ活動における民俗芸能の位置づけをしてほしい。</p> <p>学校での民俗芸能を取り上げる時間が少ないので、もっと多くしてほしい。</p> <p>元気な高齢者が多いので、子どもとおじいちゃん、おばあちゃんという関係で地域の文化芸術、伝統、歴史に関する活動を連携して取り組むということを指針の中に盛り込んでほしい。</p> <p>盆踊りのような生活文化、大衆文化も重要である。文化芸術振興指針作成の理念には、庶民の生活文化の視点も盛り込んで欲しい。</p> <p>クラシック音楽をわかりやすく伝えられるような場をもっと増やしていただきたい。</p> <p>「育つ」部分については、本当にまだ取組不足なのかなと思っています。これらについても研修会、ワークショップ、さらには今盛んに行われているアウトリーチ（美術館・博物館が裾野を広げる契機として施設訪問など対外的な広報活動をする）を増やす必要があります。</p>	<p>県内、特に被災地における郷土文化・芸術の復興、継承と支援の強化については、指針改訂の中で反映していきます。</p> <p>（幼少時より）文化芸術に「触れる」機会の増加とそれに伴う人材育成の観点については、指針改訂の中で反映していきます。</p>

主な施策の方向	意見	対応方向
	<p>小学校、中学校での音楽や美術の授業が減っていると聞くが、一番感受性が豊かな年代なので、将来への蓄えとして文化芸術に触れる機会を増やしてほしい。</p> <p>震災直後は普通の学校生活を取り戻すのに精一杯だったため、色々な団体の依頼を断ったが、現在は、普通の生活を取り戻しつつあり、芸術文化が被災地に必要となっているので、今後も文化芸術活動を被災地で行ってほしい。</p> <p>文化芸術振興において、特にお金を出せばいいという問題ではなく、心の問題から入っていかないと進まないというふうに感じている。</p> <p>幼稚園教育から年中行事を教えていくことが必要。</p> <p>高校生の文化芸術活動に対する支援は引き続きお願いしたい。</p> <p>新進・若手芸術家活動支援は、年々定着しているが、内容に偏りがある。オーケストラだけではなく、演奏会形式のオペラのアリアや一人オペラがあってもいいのではないかと。</p>	<p>豊かな情操を幼少期から育むとともに、次代を担う中学生・高校生の文化活動や新進・若手芸術家等の活動を支援することによる人材育成の観点からは、指針改訂の中でも引き続き採用します。</p>
<p>4 文化芸術の担い手を支援するネットワークの形成(つなぐ)</p>	<p>芸術文化団体、市町村文化芸術協会、NPO、各種市民団体が文化施設に頼りすぎている、その施設でしかできないと思込んでいると思う。本当の民間活動の力を付けさせることが必要。</p> <p>市町村によって取り組み方の熱意に差がある。教育長会議等でこのようなことをぜひお話をされて、文化行政の総合計画を作成する場合には熱心な議論を深めていただいて、文章としてきちんと記述していただければ担当者の意気込みも違うのかなと思った。</p> <p>沿岸被災地において環境基盤が整っていない中、自発的な(文化芸術)活動をなさっている方々を支援していく取組が必要。</p> <p>(沿岸被災地における文化芸術活動について、)有料でもいいから安価で公演を実現できる支援策というものも必要。</p> <p>平成22年に作った担い手支援の文化芸術ネットワーク、私は役員になっているのですが、最低でも情報誌というか、情報を共有できる資料を出すべきであったと思う。</p> <p>中高生の表現活動が顧問の先生に頼りすぎで外部の人を入れないようになっているので、中高生の文化活動等が地域に開かれ、地域と一緒に進めるよう仕掛けづくりをお願いしたい。</p>	<p>各個人・団体等の役割の再認識と啓発の観点からは、指針改訂の中で反映していきます。</p> <p>文化芸術活動支援ネットワークの形成と形成後の活動強化については、指針改訂の中で反映していきます。</p>

主な施策の方向	意見	対応方向
5 上記 1～4 のほか、全体的なこと	<p>岩手県文化芸術振興指針はすばらしいので、岩手県民にもっと分かりやすく浸透させてほしい。</p>	<p>次期指針をより多くの方々に理解していただけるよう努めてまいります。</p>
	<p>本県における文化芸術の位置付けについて、震災後は、持続可能な社会づくりのためには文化芸術の果たす役割というのは大きいという認識を持ち、トータルで文化芸術の役割を捉えるという前提で次期指針を策定すべき。</p>	<p>文化芸術が持つ大きな力・様々な効果を常に理解しつつ、指針改訂に努めてまいります。</p>
	<p>新指針は、岩手の遠い将来（100年、200年後）ではなく、近未来（10年、30年、50年という視界の届く範囲）を提示してほしい。</p>	<p>現指針の理念・考え方を維持し、改訂後の指針についても、（近未来である）5年間を目標設定期間として位置付ける予定です。</p>